

俳句を味わう

〔知識・技能〕

解答

俳句の形式は、五七五の十七音です。 () は音の数を表します)

(初句) (第二句) (結句)

初句切れ

二句切れ

句切れなし

やってみよう

「解答と解説」

(1)

A

・字余りとは、音数が基本の五音、または七音より多いことをいい、字足らずとは、音数が基本の五音、または七音より少ないことをいいます。Aの句は一句目が六音なので字余りの句になります。

(2)

B 初句切れ

・Bは初句に、Dは第二句に、「や」という切れ字があるの
で、それぞれ初句切れ、二句切れとなります。

D 二句切れ

「切れ字」とは…
句が切れることを表す語のことをいい、主な切れ字には、
ぞ・かな・や・けり・ず・ぬ・らむがあります。

(3)

D

(季語) 甲虫

・それぞれの句で、季節を表す言葉を探しましょう。
季語が表す季節について
昔と今では用いる暦(こよみ)が異なるので、月と
季節の対応の仕方も違います。昔の暦のことを太陰
暦といい、今の暦のことを太陽暦といいます。

(季語) 夏

一月 三月 春

(季語) 雪

四月 六月 夏

(季節) 冬

七月 九月 秋

例えば、七夕は 七月の行事ですが、秋の季語に
なります。

十月 十二月 冬

(4)

D

・Dの俳句は、「甲虫」という名詞(体言)で句が終わっているの
で体言止めが正解になります。

主な表現技法

- 倒置法…通常と語順を入れかえること。
- 体言止め…結句と最後を体言(名詞)で止めること。
- 比喻法…ものごとを他のものに例えること。
- 反復法…同じ言葉、または多少変化させた言い方を繰り返すこと。

《参考にしよう》

学習プリント基礎・基本編

表現の工夫をとらえる